

島根県西部における海上におけるハクチョウの確認例

神谷要¹・森茂晃²

1. 米子水鳥公園, 683-0855 米子市彦名新田665
2. ホシザキグリーン財団, 691-0076 平田市園町沖ノ島1659-5

2001年11月19日、島根県西部の江津市(北緯35度0分・東経132度13分、図1)の沖でハクチョウの群れが観察された。西日本におけるハクチョウの飛来地は、宍道湖・中海周辺に集中しており、とくに島根県西部における観察例は少ないのでここに報告する。

ハクチョウの群れを確認したのは、日本海を警戒する海上保安庁の巡視船「やなかぜ」で、乗務員が海岸から三キロ程度の海上で羽根を休めるハクチョウ約20羽を確認した(図2)。場所は、内湾ではなく外洋で、水深が20m以上もある場所である。

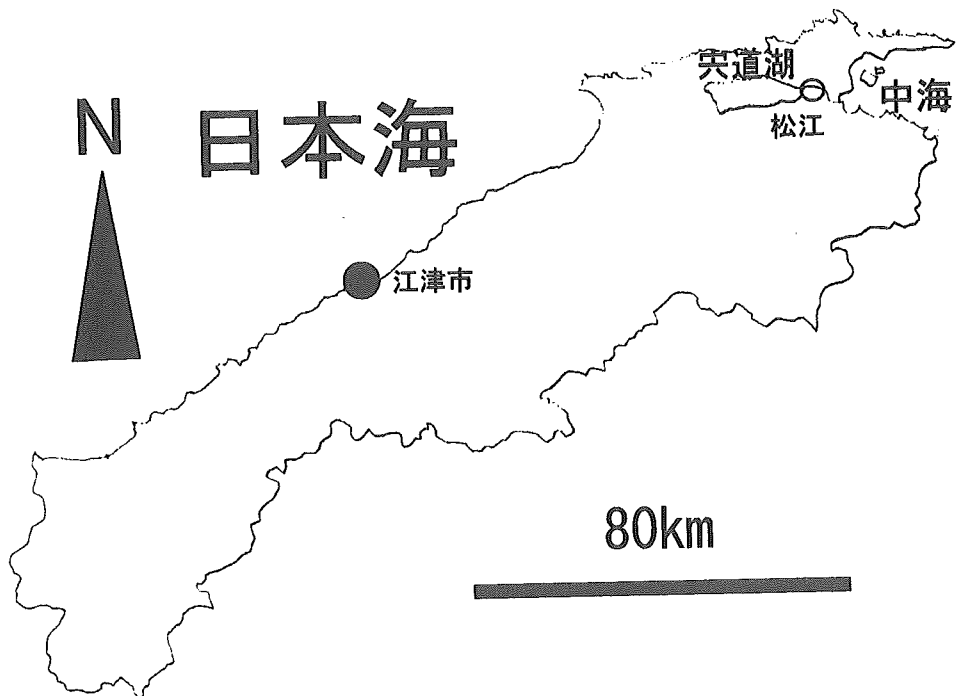


図1. 島根県図とハクチョウの群れが観察された位置.

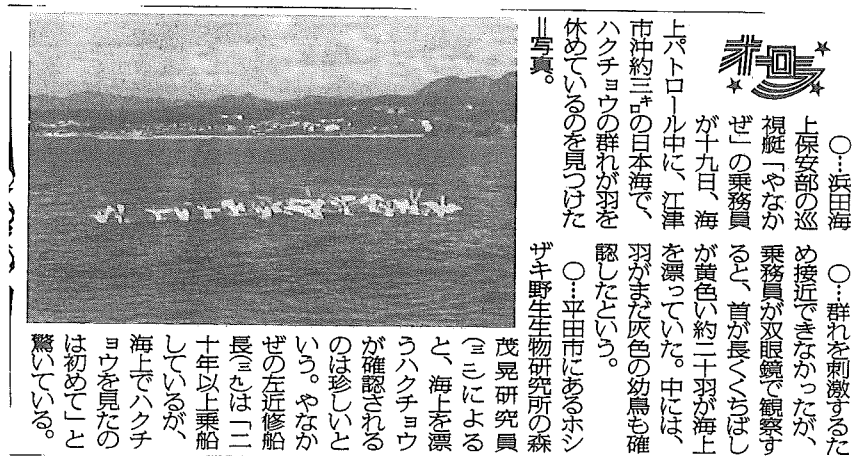
Kaname KAMIYA & Shigeaki MORI, An observation record of swans on the southern part of the Sea of Japan, at western Shimane Prefecture.

船員は、このハクチョウに嘴に黄色い部分があることを確認しているので、コハクチョウもしくはオオハクチョウであることは間違いない。また、ハクチョウの群れには、羽がまだ灰色の幼鳥が含まれていたことも確認された。

このハクチョウの群れを確認した島根県江津沖以南には、山口県阿知須干拓地など、日本国内でも少数が渡来するところがある。しかし、環境省(2001)によると、20羽を超えるハクチョウ類の飛来地はない。そのため、この群れは、最も近くの越冬地である宍道湖・中海周辺(西北西100km)へ向かう群れが南下の方向を間違えた可能性が考えられるほか、門脇(1981)が指摘するような、朝鮮半島経由で日本に渡来する未知の渡りルートの途中であった可能性や、さらに日本を南下する群れであった可能性が考えられる。

いずれにしても、確認された時期が渡来初期であることから、移動途中の個体群が海上で目撃されたものであろう。

謝辞：写真と情報を提供していた浜田海上保安部および巡視船「やなかせ」左近修船長に心より感謝申し上げます。



○…浜田海上保安部の巡視船「やなかせ」の乗務員が十九日、海上に約三十羽のハクチョウの群れを見つけた。中には、休んでいるのを見つけた。○…平田市にあるホシザキ野生物研究所の森茂見研究員(三三)によると、海上を漂うハクチョウが確認されるのは珍しいという。やなかせの左近修船長(三三)は「二十年以上乗船しているが、海上でハクチョウを見たのは初めて」と驚いている。

図2. 今回撮影されたハクチョウの群れを報じる新聞記事。

引用文献

- 門脇益一, 1981. 中海のハクチョウはいま. 山陰放送, 米子.
環境省, 2001. 第31回ガンカモ科鳥類生息調査報告書. 環境省, 東京.